

弦が揺れると、僕は季節の風になる

✦ 文 佐田大陸 text by Tairik Sada ✦

令和の歌声

生きていると、加速度的に体感時間が短くなっていくという「ジャンネーの法則」を提唱したのは19世紀のフランスの哲学者ポール・ジャンネ。科学的な根拠はともかく、年を重ねるにつれて一年一年が風のように過ぎ去っていくように感じる昨今、この法則は体感的にしっくりきます。

人類の進化にしろ、投資の複利にしろ、指数関数的に伸びるものは多く、もし人生の体感時間も同じだとしたら、人生の中で「今」が最も若く、充実した時間を長く感じられることとなります。

小学生時代は一日一日がとても長く、6年間という時間は途方もなく大きいものを感じられました。歴代の担任の先生の顔や仕草、どこで遊び、どんなことで怒られ、何をしでかして怒られたのか（あ、怒られてばかり）、今でも明確に覚えていることは多いものです。

今年、人生で初めて小学校の校歌を作曲させていただきました。長野県飯山市で、4つの小学校が統合され、2025年に開校する城北小学校の校歌です。

近年は過疎化や少子化の影響も大き

く、毎年全国で廃校になる学校は数百に上るといわれています。国の宝である子どもたちが、心からすくすくと育つ環境になって欲しいです。

作詞は飯山で育ち、積極的に後進の教育に携わり、声楽家、作曲家、合唱指揮者、ピアニストとしても大活躍されている山崎浩さんです。

母校の校歌ってどんなだったかなと、記憶を辿ってみると、卒業して25年以上経った今でもはつきり思い出して歌うことができます。若い細胞を使って毎日を積み重ねたお陰なのか、一日一日をしっかりと記憶に刻みながら懸命に生きていたからなのか、今でも心に残っているのは凄いなことだなあと思います。

曲を書く立場になってみると、いつまでも良い記憶と共に心に残る校歌になつたらいいなあと思いますが、とはいえ、自分自身は校歌について深く考えたこともなかったし、歌詞をまじまじと眺め、意味を噛みしめたこともありませんでした。「学校の思い出と共にただそこにあつた」そんな感じでした。

ジャンネーの法則によると、小学生時代は人生の大半を体感的に担う大事な時期です。不安の絶えないこの日本を、

これから生き抜いていくことに心からのエールを送るとともに、純真無垢でキラキラした目がさらに輝いていくと信じています。

月日が経ち、長い長い日々を振り返ったとき、耳を澄ませば、どこか懐かしい令和の歌声が聴こえてくる、そんな記憶の旅路を彩る、素敵な思い出となることを心から願っています。

profile

TAIRIK(たいりく) ヴァイオリニスト / ヴィオリスト / 作曲家

桐朋学園大学音楽部卒業、同大学院修了

ヴァイオリン & ピアノによる3人組インスト・ユニット「TSUKEMEN」を結成後、キングレコードよりメジャーデビュー。最新アルバム「HAPPY キッチン」など、リリースしたCDはクラシック・チャート1位を次々と獲得。国内にとどまらず、アメリカ、アジア、ヨーロッパなどで700本を超える舞台に立ち、50万人以上の観客を魅了。近年ではTSUKEMENに加え、古澤巖氏と結成した弦楽四重奏団「品川カルテット」、水谷晃氏と結成した「MIZUTANI × TAIRIK」も大反響を呼んでいる。

「徹子の部屋」「題名のない音楽会」「きょうの料理 栗原はるみのキッチン日和」など数多くのTV番組に出演。SBCラジオ「TSUKEMEN TAIRIKの信 TAIRIK発見」毎週月曜 15:00台にレギュラー出演中。

<https://tsukemen-music.com>

